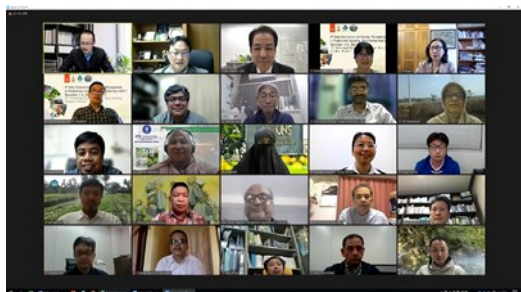


第9回 国際会議 (オンライン 11月10日)

International Roundtable Meeting

岐阜大学大学院連合農学研究科(博士課程)は、11月10日(水)に南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校(日本を含む南部アジア地域9カ国20大学)(以下、IC-GU12という)による「The 9th IC-GU12 Roundtable Meeting」(第9回農学系博士教育国際連携円卓会議)(以下、ラウンドテーブルという)を開催しました。

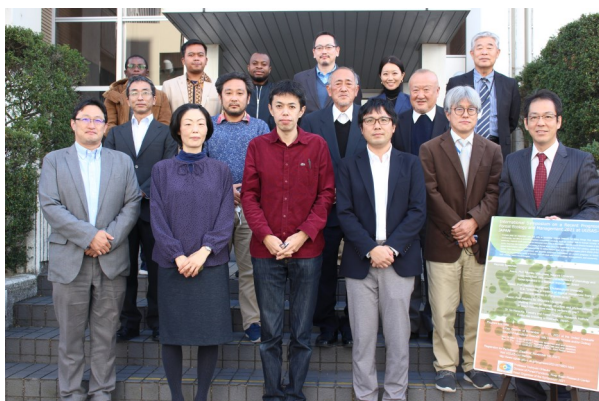
加盟校のうち16大学のリエゾン教員等27名の出席のもと、各大学のオンライン講義の開催状況や事例、オンラインによる海外教員との教育連携についての総合討論が行われました。ラウンドテーブルでは、各大学の教育に関わる問題の解決のヒントを得ることができ、大変有意義な会議となりました。



第11回 国際シンポジウム (オフ・オンライン 11月10・11日)

Forest Ecology and Management

10日(水)・11日(木)に海外のアカデミアで活躍する本研究科修士生の若手研究者を中心とした生物・農学系シンポジウム「UGSAS-GU International Symposium on a Recent Progress in Forest Ecology and Management 2021」(以下、シンポジウムという)を、流域圏科学研究センター大塚俊之教授、応用生物科学部向井譲教授、加藤正吾准教授の協力を得て、本学連合農学大学院棟およびWeb会議のハイブリッドで開催しました。森林生態学と管理における最新の状況をテーマに中川弥智子名古屋大学准教授、Sasitorn Pongparnチュラロンコン大学准教授(タイ)、飯尾淳弘静岡大学准教授、花岡創森林研究・整備機構森林総合研究所材木育種センター北海道育種場育種課育種研究室長の計4名による基調講演及び研究者15名の研究発表が4セッションにわたり行われ、より深い研究討論を行いました。本シンポジウムでは多くの本研究科修士生を含む森林分野の研究者が最新の研究事情に触れたり、他分野の聴講者も森林分野について学ぶ良い機会となりました。



NEWSLETTER(電子版)

第10号発行にあたり

岐阜大学大学院連合農学研究科は2021年(令和3年)4月をもって創設30周年を迎えました。まずは本研究科を支えていただきました岐阜大学、静岡大学、そしてかつての構成校である信州大学の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。東海地域の小規模な大学であったとしても、国立大学の使命は研究に裏付けられた質実剛健な教育であり、博士課程の研究科はその要であるといえます。その意味で本研究科が果たしてきた役割は大きく、少なからず農学の進歩に貢献するとともに多くの有用な人材を輩出してきたものと自負しております。2020年度までの実績で、課程博士を768名、論文博士を158名、計926名に学位を授与しており、多くの修了生は各界で活躍されております。今後とも、農学系博士教育の拠点として一層発展するように努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本年度の活動についてもご報告いたします。コロナ禍の影響で、多くのことが遅々として進みませんが、少しずつ海外からの留学生も来日できるようになったり、対面での講義、調査や実験などが以前と変わらなくなりつつあったりと、少しずつ日常を取り戻しつつあります。11月には南部アジアにおける協働教育コンソーシアム(IC-GU12)のラウンドテーブルと国際シンポジウムを遠隔会議システム(一部ハイブリッド)が開催されました。これらラウンドテーブルとシンポジウムは、海外共同ラボ、国際誌RAS(Reviews in Agricultural Science)とともに、IC-GU12を発展させる鍵だと思っておりますので、次年度も開催したいと思っております。もう一つ大きなこととしては、Anita Maya Sutediaさん(柳瀬笑子研究室・令和2年9月連農修了)が、2021年(令和3年)にボゴール農科大学(インドネシア)にて博士の学位を取得されたことにより、ダブルディグリーを達成されました。本研究科が進めてきたダブルディグリープログラムにおいて、初めての達成者となりました。今後とも優れた研究者として、そしてインドネシアと日本との架け橋として活躍されることを期待しています。本号では、国内外で活躍する皆様に、本研究科の特色のある活動を紹介いたします。本研究科の発展と新しい展開に対して貴重なご意見をいただければ幸いです。

岐阜大学大学院連合農学研究科長

平松 研



11日午後から本学の流域水環境リーダー育成プログラムと共催にて、学生21名によるオンラインポスターセッションが行われ、優秀発表学生以下5名にポスター賞が授与されました。

ポスター賞受賞者

Nichapat Keawmanee: D2
Fawzan Sigma Aurum: D3
Shiamita Kusuma Dewi: D1
Naoki Moriai: 水環境リーダー
Yajie Wang: 水環境リーダー



岐阜会場での表彰の様子

第6回 ICCC (オンライン 5月25日)

The 6th International Conference on Climate Change

大学院連合農学研究科(UGSAS)は、スプラス・マレット大学(インドネシア)と共催し、令和3年5月25日(火)にオンライン(ZOOM)を利用し、「Environmental Perspective in Understanding the Effects of Climate Change on Immune System Modulation in Organisms」と題し、第6回 International Conference on Climate Change 2021(以下「ICCC」とする)を開催しました。

本研究科からは、平松研研究科長、八代田真人教授が参加し、平松研究科長より開会の挨拶、八代田教授が「Climate Change and Cattle: Heat stress, Immune system and Production」について基調講演を行いました。また、本研究科の修了生である、ダッカ大学(バングラデシュ)のA.H.M. Nurun Nabi教授、テキサスA&Mヘルスサイエンスセンター(アメリカ)のMohammad Nasir Uddin教授を含め6名が基調講演を行いました。ICCCでは基調講演、パネルセッションでのべ117名が発表を行いました、総勢223名が参加しました。今回はスプラス・マレット大学の創立45周年記念事業のひとつとして開催されました。



連合農学研究科 学位記授与式

3月15日、9月17日に、岐阜大学講堂にて学位記授与式が挙行されました。

2021年3月～12月の学位記授与者数:

3月 17名(うち留学生7名)
6月 1名(うち留学生1名)
9月 4名(うち留学生4名)
12月 1名(うち留学生1名)

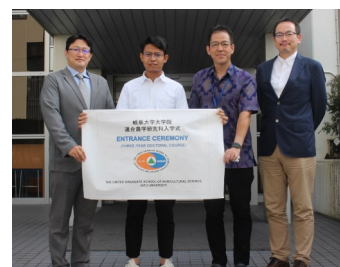
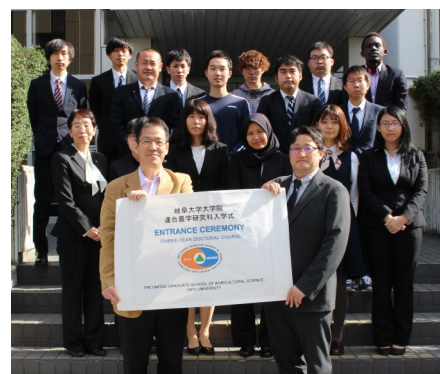


連合農学研究科 入学式

4月9日、10月4日に、2021年度入学式が挙行されました。

2021年度入学者数:

4月 33名(うち留学生18名)
10月 6名(うち留学生6名)



第7回 ICCC (オンライン 11月18日)

The 7th International Conference on Climate Change

大学院連合農学研究科(UGSAS)は、スプラズ・マレット大学(インドネシア)と、令和3年11月18日(木)にオンライン(ZOOM)を利用し、「Can Vaccine Protect Us Against Climate Change?」と題し、第7回 International Conference on Climate Change 2021(以下ICCCという)を共催しました。本会議では、まず平松研究科



長より開会の挨拶があり、その後「Possible Prevention & Protection Against Infection Diseases」と題して、鈴木文昭名誉教授による基調講演が行われました。鈴木名誉教授含む5名の基調講演、10の平行セッションにて延べ140名が発表を行い、総勢270名が参加しました。ICCCは今年度で7



回目を迎え、気候変動が人間生活や環境問題に与える影響をモニタリングし、改善するための努力を継続して行っており、環境、農

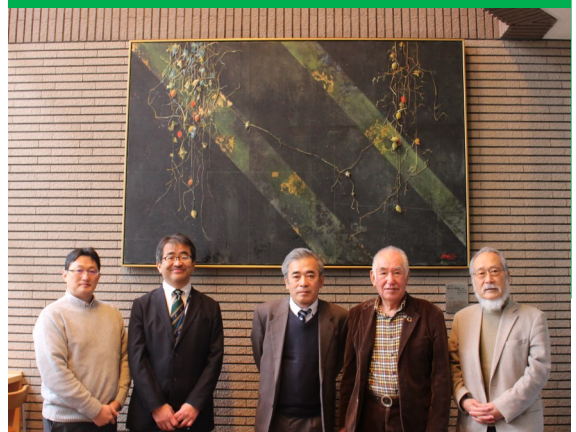
業、法律、社会、経済、文化など様々な視点から気候変動に関する課題が議論されました。コロナ禍で国際会議がなかなか開催できない中で、本研究科の修了生・現スプラズ・マレット大学のコリア准教授の主導のもと本年度は2度開催することができ、意見交換の貴重な機会となりました。

連農 ニュース

2月26日(金)に村橋元氏より絵画1点を寄付していただきました。

今回の寄付は、村橋元氏が岐阜市内で建設コンサルタントを50年以上にわたり経営してきた経験から、今後も岐阜大学で継続的に農業土木に貢献する人材が育成されることを願い、学生に上質の美術作品に接する機会を提供することで勉学意欲と想像力を向上させることを目的として行われました。

当日は、村橋元氏、絵画の制作者である古川秀昭氏、平松研連合農学研究科長、浅井鉄夫連合獣医学研究科長、千家正昭名誉教授らが参加し、受け渡しのセレモニーが開催され、平松研連合農学研究科長より御礼状が手渡されました。寄付された絵画は、連合大学院棟1階の玄関ホールに展示されています。



【受賞一覧2021】

- 楠田哲士, 吉田智紀 (2021). 絶滅危惧動物用の妊娠検査薬の開発と普及. 第1回岐阜テックプランングラプリ. OKB賞.
- Kimpara H, Akiba Y, Murai H, Horiguchi M, Miyano N, Takahashi Y, Shiraishi T, Koyama M, Sato T, Kusuda S (2021). Factors affecting the timing and traits of egg-laying in captive Japanese rock ptarmigan (*Lagopus muta japonica*). 飼育下ニホンライチョウの産卵タイミングと産卵特性に影響を及ぼす要因. The 14th Asian Society of Conservation Medicine (ASCM)/ the 27th Japanese Society of Zoo and Wildlife Medicine (JSZWM) Joint International Conference. 第14回アジア保全医学会・第27回 日本野生動物医学会 2021年合同大会. The Excellence Poster Presentation Award.
- 星野 智, 島田英里, 高橋勇太, 八代田真人 (2021). 樹葉サイレージの発酵特性と動物園動物に対する嗜好性. 動物の行動と管理学会 2021年度研究発表会. 優秀発表賞.
- 藤代 薫, 久保周平, 泉岡篤紀, 井出壮亮, 山田雅章 (2021). 凍結乾燥セルロースナノファイバーを添加した水性高分子イソシアネート系接着剤の木材接着性能と反応性. 第59回日本接着学会年次大会. ベストポスター賞.
- 濱島将伍, 野口晴佳, 河村奈緒子, 田中秀則, 今村彰宏, 石田秀治, 一柳剛, 安藤弘宗 (2021). 完全に立体選択的なKdo α-グリコシド化法の開発研究. 糖鎖科学中部拠点第16回「若手の力」フォーラム. 2020年糖鎖科学拠点奨励賞.